



2026年3月期 第3四半期決算

2026年2月5日
オムロン株式会社

発表のポイント

● 2025年度 第3四半期(10～12月)実績

- 全社実績は、売上は増収となるものの、売上総利益率の低下と成長投資の継続により減益
- 制御機器事業は、顧客基盤の回復に加え、AI関連需要を捉え大幅な増収
- 一方、営業利益は、売上総利益率が緩やかな回復に留まる中、成長投資の継続により前年水準を下回る

● 2025年度 通期見通し

- 4Q期間の為替影響や事業環境を織り込み、前回見通しから売上を上方修正
- 中長期を見据えた成長投資を継続する中でも、収益性は着実に改善し、4Q期間で増益に転じる見通し
- 制御機器事業は、グローバルでのFA需要やAI関連需要の獲得により、前回想定を上回る売上成長が継続
- 期末配当は前回予想通り52円を計画。年間配当予想は104円を据え置く

- 1. 2025年度 第3四半期(10~12月)実績 ... P.4 ~ P.8**
- 2. 2025年度 通期見通し ... P.9 ~ P.20**

1. 2025年度 第3四半期(10~12月)実績

3Q累計(4～12月)実績：全社連結

売上は増収、営業利益は減益

(億円)

	2024年度 3Q累計実績	2025年度 3Q累計実績	前年同期比
売上高	5,797	6,143	+6.0%
売上総利益 (売上総利益率)	2,617 (45.1%)	2,695 (43.9%)	+3.0% (△1.3pt)
営業利益 (営業利益率)	359 (6.2%)	339 (5.5%)	△5.7% (△0.7pt)
当社株主に帰属する 当期純利益	72	143	+99.6%
米ドル 平均レート (円)	152.1	148.6	△3.5
ユーロ 平均レート (円)	164.8	170.6	+5.8
人民元 平均レート (円)	21.1	20.7	△0.4

3Q期間(10~12月)実績：全社連結

売上は増収。営業利益は売上総利益率の低下と成長投資の実行により減益

(億円)

	2024年度 3Q期間実績	2025年度 3Q期間実績	前年同期比
売上高	2,051	2,208	+7.7%
売上総利益 (売上総利益率)	917 (44.7%)	970 (43.9%)	+5.7% (△0.8pt)
営業利益 (営業利益率)	167 (8.1%)	161 (7.3%)	△3.2% (△0.8pt)
当社株主に帰属する 当期純利益	105	53	△49.6%
米ドル 平均レート (円)	149.0	153.2	+4.2
ユーロ 平均レート (円)	161.8	178.1	+16.3
人民元 平均レート (円)	20.9	21.6	+0.6

3Q期間(10~12月)実績：事業セグメント別

制御機器事業は増収減益。ヘルスケア事業、電子部品事業は増収増益。
社会システム事業は減収減益

	売上高			営業利益 (億円)		
	2024年度 3Q期間実績	2025年度 3Q期間実績	前年同期比	2024年度 3Q期間実績	2025年度 3Q期間実績	前年同期比
制御機器事業 (I A B)	915	1,011	+10.4%	112 (12.3%)* ¹	97 (9.6%)	△13.7% (△2.7pt)
ヘルスケア事業 (H C B)	387	413	+6.7%	55 (14.1%)	55 (13.3%)	+0.3% (△0.8pt)
社会システム事業 (S S B)	354	336	△5.1%	40 (11.2%)	37 (10.9%)	△7.4% (△0.3pt)
電子部品事業 (D M B)	271	303	+11.9%	1 (0.3%)	8 (2.6%)	+936.8% (+2.3pt)
データソリューション事業 (D S B)* ²	113	138	+21.8%	13 (11.8%)	19 (13.7%)	+41.3% (+1.9pt)
うちJMDC	114	134	+17.5%	25 (22.0%)	33 (24.9%)	+33.1% (+2.9pt)
本社他 (消去調整含む)	10	8	△25.3%	△54	△54	-
合計	2,051	2,208	+7.7%	167 (8.1%)	161 (7.3%)	△3.2% (△0.8pt)

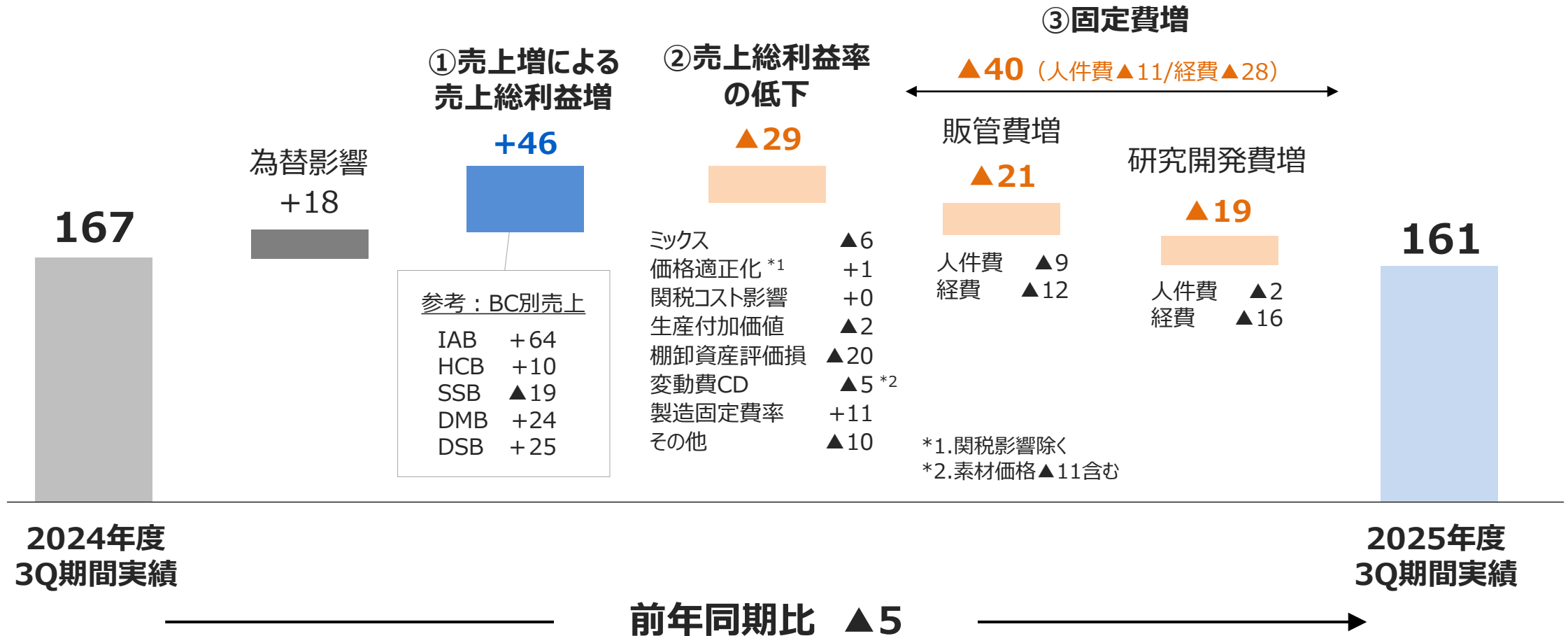
*1.営業利益の表にある()は、営業利益率を示す

*2.データソリューション事業 (DSB) は、JMDC社の財務数値ならびに連結に伴うのれんを除く無形資産の償却費、他データビジネスに関する財務数値を含む

3Q期間(10～12月)実績：営業利益増減（前年同期比）

制御機器事業を中心とした売上増により、売上総利益は増加。
一方で、売上総利益率の低下や成長投資により営業利益は前年並み

(億円)



2. 通期見通し

4Q期間の事業環境認識

業界ごとに濃淡はあるものの、総じて前回想定通りの事業環境が継続。
制御機器事業は緩やかに回復

制御機器 事業

総じて前年から緩やかに回復
半導体業界は堅調、二次電池業界は前回想定よりも好調な推移を見込む

※詳細は後述

ヘルスケア 事業

血圧計市場はグローバルでは堅調に推移。中国は、前年から横ばいを見込む

循環器：グローバルで堅調に推移も、北米は関税影響による不透明感が継続。中国は個人消費停滞により低調な推移を見込む

呼吸器：ネブライザは、中国の個人消費停滞が継続し低調に推移

社会システム 事業

再エネ市場や鉄道業界で一時的な需要停滞を見込む

エネルギー：住宅向けは今期補助金の早期終了、産業向けは工期遅延等により、一時的な需要停滞を見込む

鉄道業界：一部の設備投資延期により、前回見通しから一時的に需要が弱含む見通し

電子部品 事業

総じて堅調な事業環境を見込む

DC機器・高周波機器：EV・新エネルギーで需要停滞するも、半導体市場の拡大を背景に堅調に推移

汎用機器：グローバルで堅調継続

データ ソリューション 事業

ヘルスビッグデータ事業を中心に、総じて堅調な事業環境を見込む

JMDC：医療データ利活用の動きは、製薬・生損保業界を中心に堅調継続

社会的な健康・予防意識の高まりを背景に、保険者・生活者向けサービスの需要が拡大

通期業績見通し：全社連結

売上を上方修正、営業利益・当期純利益は前回見通しを据え置く

(億円)

	2025年度 前回見通し	2025年度 今回見通し	前回見通し比	2024年度 実績	前年度比
売上高	8,450	8,550	+1.2%	8,018	+6.6%
売上総利益 (売上総利益率)	3,735 (44.2%)	3,755 (43.9%)	+0.5% (△0.3pt)	3,571 (44.5%)	+5.1% (△0.6pt)
営業利益 (営業利益率)	600 (7.1%)	600 (7.0%)	- (△0.1pt)	540 (6.7%)	+11.0% (+0.3pt)
当社株主に帰属する 当期純利益	290	290	-	163	+78.2%
ROE	3%程度	3%程度	-	1.8%	-
ROIC	3%程度	3%程度	-	2.1%	-
EPS (円)	147.40	147.40	-	82.63	+64.77
米ドル 平均レート (円)	145.7	149.0	+3.3	152.6	△3.7
ユーロ 平均レート (円)	165.9	171.7	+5.8	163.7	+8.0
人民元 平均レート (円)	20.2	20.9	+0.8	21.1	△0.2

通期業績見通し：セグメント別

制御機器事業、ヘルスケア事業は売上・営業利益を上方修正。
社会システム事業は売上・利益を下方修正。電子部品事業は営業利益を下方修正

	売上高				営業利益 (億円)			
	2025年度 前回見通し	2025年度 今回見通し	前回見通し比	前年度比	2025年度 前回見通し	2025年度 今回見通し	前回見通し比	前年度比
制御機器事業 (I A B)	3,860	3,960	+2.6%	+9.8%	400 ^{*1} (10.4%)	415 (10.5%)	+3.8% (+0.1pt)	+14.4% (+0.4pt)
ヘルスケア事業 (H C B)	1,400	1,450	+3.6%	△0.6%	145 (10.4%)	150 (10.3%)	+3.4% (△0.0pt)	△14.2% (△1.6pt)
社会システム事業 ^{*2} (S S B)	1,500	1,450	△3.3%	+1.1%	200 (13.3%)	195 (13.4%)	△2.5% (+0.1pt)	+27.1% (+2.7pt)
電子部品事業 (D M B)	1,150	1,150	-	+9.1%	40 (3.5%)	25 (2.2%)	△37.5% (△1.3pt)	+717.0% (+1.9pt)
データソリューション事業 ^{*3} (D S B)	510	510	-	+19.3%	50 (9.8%)	50 (9.8%)	- -	+76.7% (+3.2pt)
うちJMDC	505	505	-	+17.7%	115 (22.8%)	115 (22.8%)	- -	+36.8% (+3.2pt)
本社他 (消去調整含む)	30	30	-	△14.5%	△235	△235	-	-
合計	8,450	8,550	+1.2%	+6.6%	600 (7.1%)	600 (7.0%)	- (△0.1pt)	+11.0% (+0.3pt)

*1. 営業利益の表にある()は、営業利益率を示す

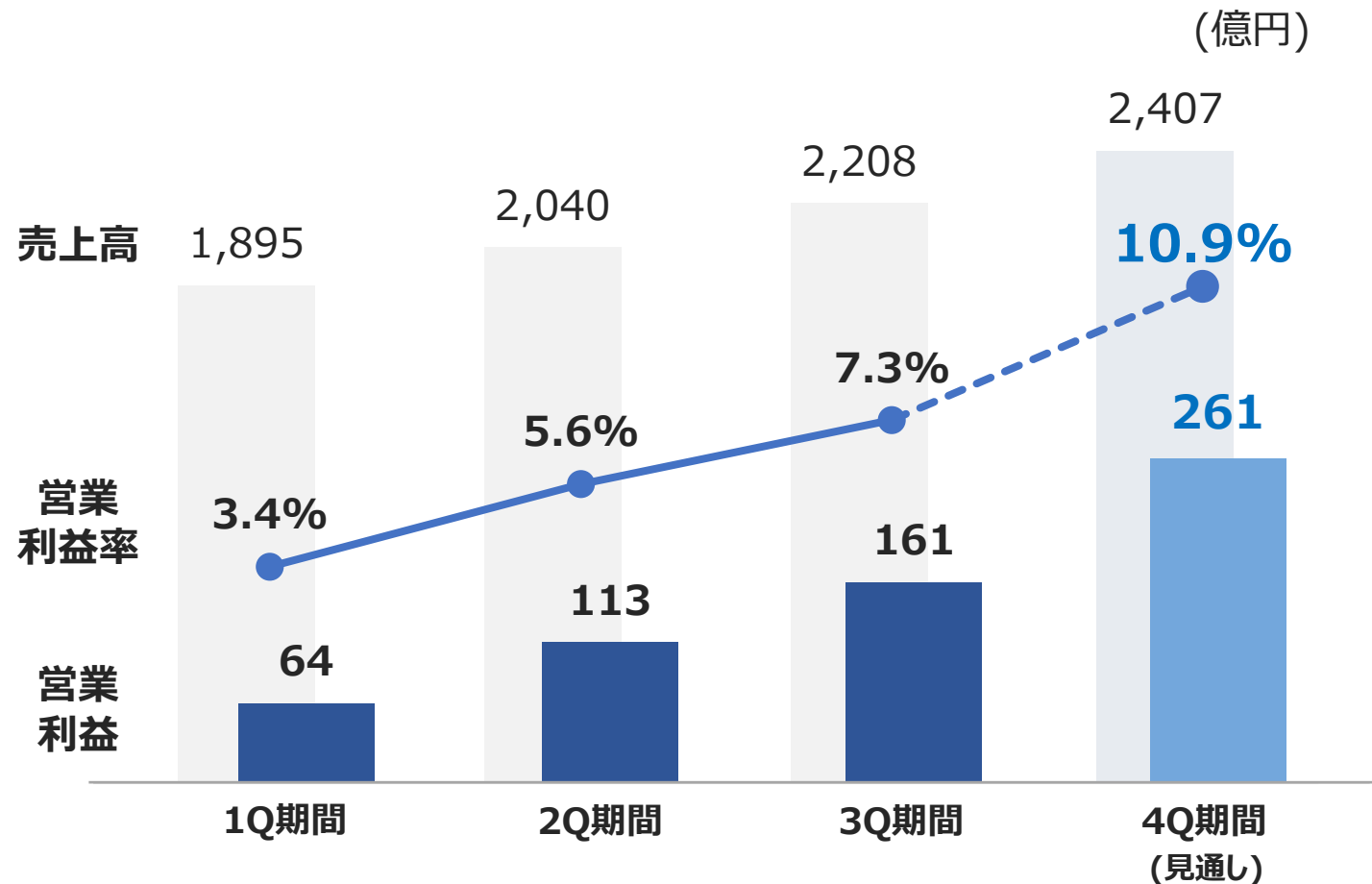
*2. 3Q期間よりオムロンデジタル株式会社の業績を「本社他」へ計上。業績見通しは当該区分にて再算出した期初計画及び前年実績を記載

*3. データソリューション事業 (DSB) は、JMDC社の財務数値ならびに連結調整 (連結に伴うのれんを除く無形資産の償却費等)、他データビジネスに関する財務数値を含む

通期業績見通し：四半期業績推移と利益拡大の背景

1Q以降段階的に営業利益率を改善。4Q期間にその水準を大きく引き上げ増益に転換

全社 四半期業績推移



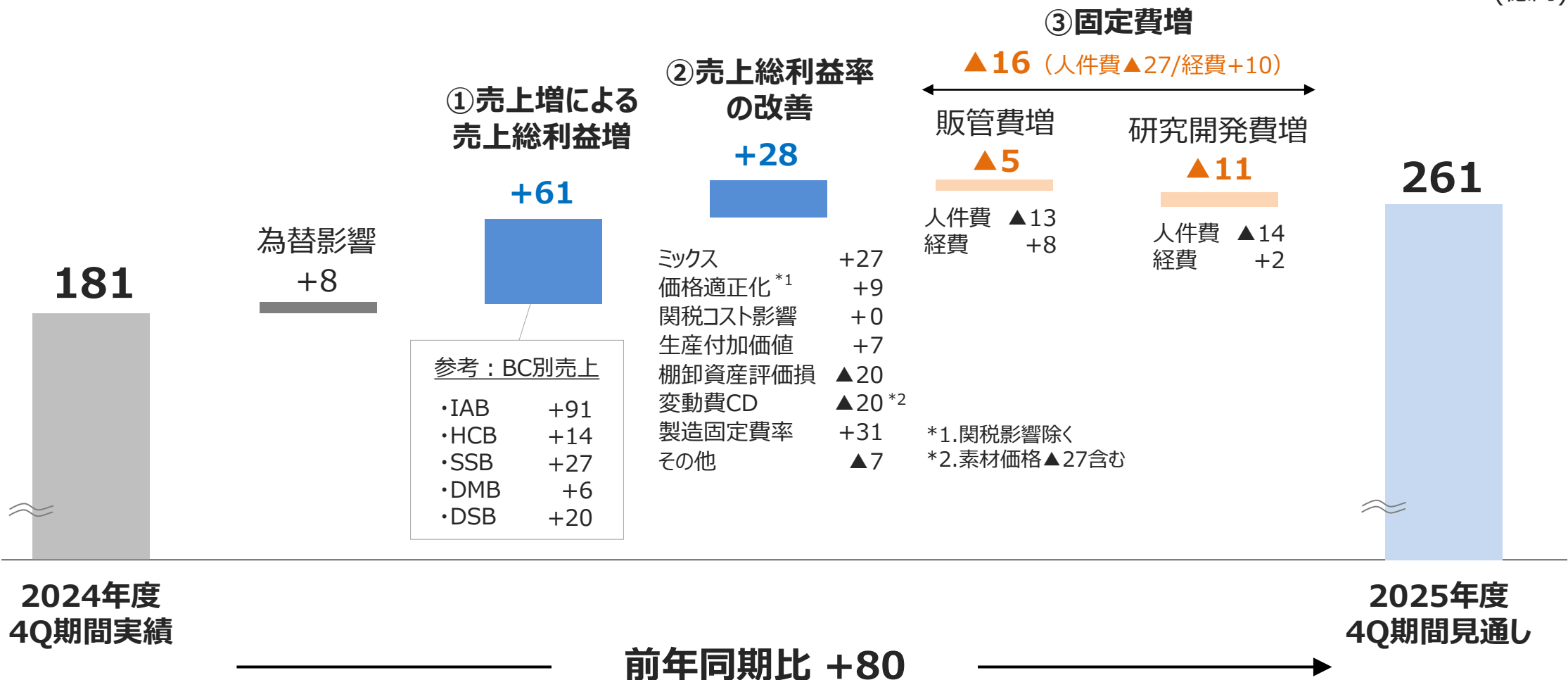
営業利益拡大の背景(4Q期間)

- 利益影響 (前四半期比)
- 売上拡大によるGP増**
 前四半期比 + 8%増収
+ 87億円
 - 売上総利益率の改善**
 同 + 0.1Pt改善
+ 3億円
 - 固定費率の改善**
 同 + 3.4Pt改善
+ 10億円

通期業績見通し：4Q期間 営業利益増減（前年同期比）

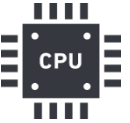




制御機器事業を中心とした売上増や売上総利益率の改善により、
成長投資による固定費増を吸収。大幅な増益を見込む

(億円)



制御機器事業：4Q期間の事業環境認識

前回見通しから緩やかに改善。生成AI需要の増加に伴い、
半導体関連の設備投資、およびデータセンター向けの二次電池需要が堅調

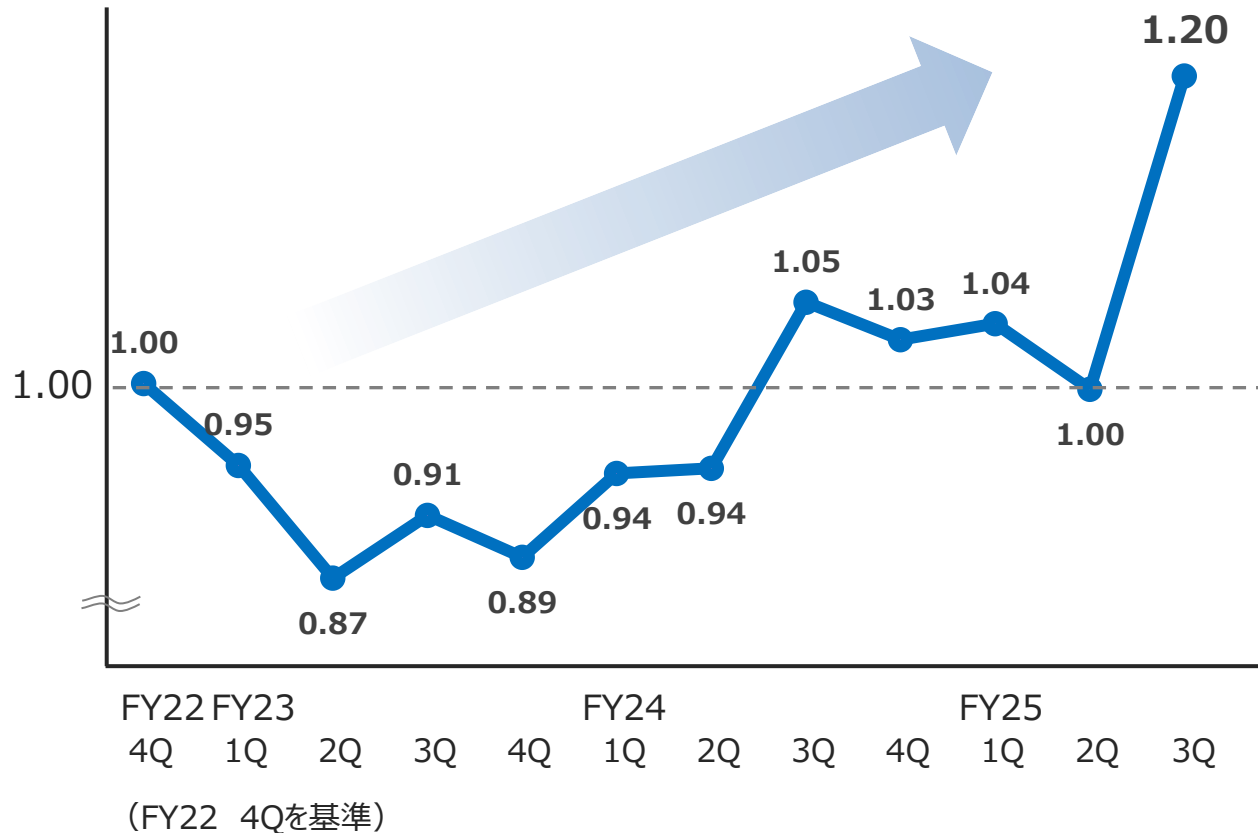
業界	4Q期間の事業環境認識
 デジタル	<ul style="list-style-type: none">・ 半導体は、生成AI需要に伴う設備投資がグローバルで拡大し、引き続き堅調
 環境モビリティ	<ul style="list-style-type: none">・ EVは、日本では投資の慎重姿勢が継続。前回見通し比で需要の微減を見込む・ 二次電池は、EV向け投資需要は横ばいの一方、データセンター向け投資需要が増加
 食品&日用品	<ul style="list-style-type: none">・ 設備投資需要に大きな変化はなく、前回見通し通り総じて横ばいを見込む
 医療・物流	<ul style="list-style-type: none">・ 設備投資需要に大きな変化はなく、前回見通し通り総じて横ばいを見込む
 その他*	<ul style="list-style-type: none">・ エリアにより濃淡はあるものの、設備投資需要は緩やかな回復を見込む

* 上記4つの業界を除いた全ての業界

制御機器事業：受注水準の推移

3Qの受注水準は、グローバルでの顧客基盤の回復に加え、AI需要獲得を背景に急上昇

受注水準の推移 (FY24予算レートベース)



3Q受注推移の背景

- 1 グローバルでの顧客基盤の回復**
 - 自社施策の進展
(新商品の拡充×代理店協業強化)
 - FA需要の緩やかな回復
- 2 AI需要拡大に伴う成長機会の獲得**
 - 先端半導体投資の獲得
 - データセンター向け二次電池投資の獲得
- 3 データ利活用ニーズの取り込み**
 - 新型コントローラ“DX1”をリリース

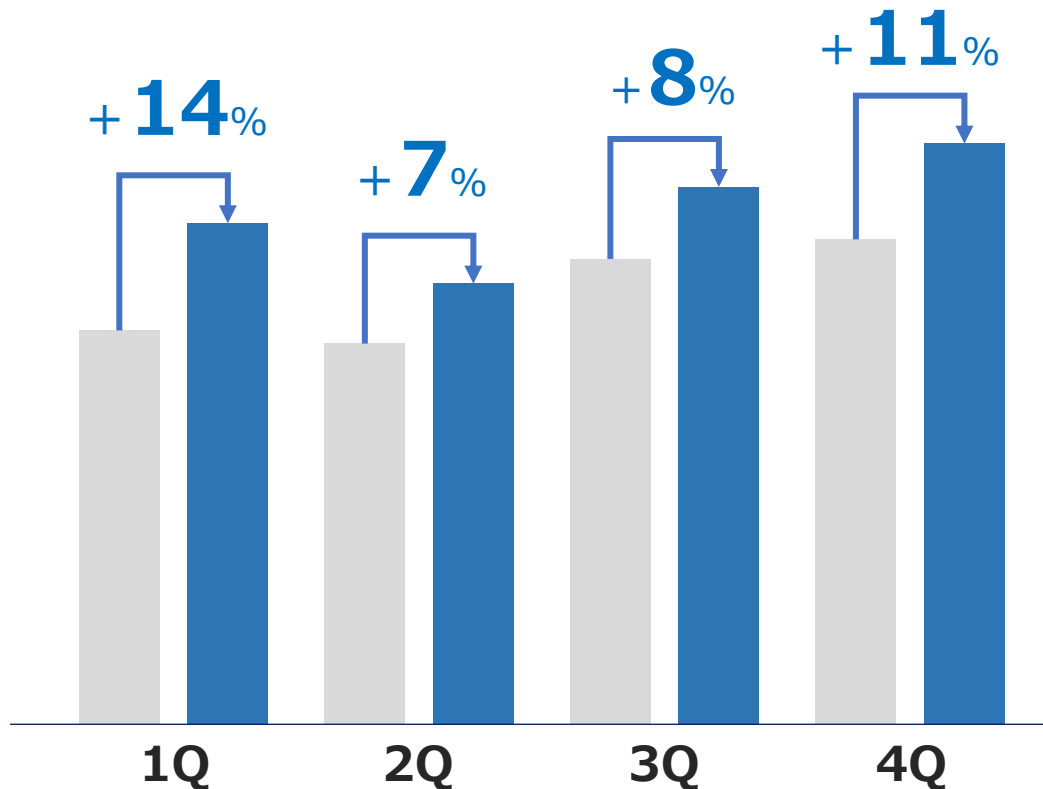
制御機器事業：グローバルでの顧客基盤の回復

「その他」業界の売上回復が続く。

成長を支える新商品の売上は着実に拡大。新商品リリースも計画通りに進捗

「その他」業界^{*1}の売上推移

■ …FY24 ■ …FY25



新商品開発・リリースの進捗状況



新商品売上
見通し

約**150**億円

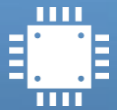
* 1.「デジタル」「環境モビリティ」「食品 & 日用品」「医療・物流」を除く全ての業界

* 2.3Q末時点で20機種のリリース完了

制御機器事業：AI需要拡大に伴う成長機会の獲得

AI需要を背景とした半導体・二次電池業界での投資を獲得し、売上を拡大

生成AI需要の拡大



半導体
業界

- ・ 先端半導体・製造装置の投資拡大
(日本・中国・アジア等)
- ・ データセンター向けの
高精度な検査需要の高まり
(中国・アジア等)



二次電池
業界

- ・ データセンター向け蓄電池の
投資拡大
(中国)

投資の獲得状況^{*}

業界向けソリューションの導入、
関連コンポの販売が拡大

【半導体業界売上】

前年比
(下期) + **8%**

自社X線基板検査装置(AXI)の
指定化と導入拡大が加速

【AXI売上】

前年比
(下期) + **182%**

中国大手顧客への業界向け
ソリューションの導入、
ハイエンド商品への受注が継続

【二次電池業界売上】

前年比
(下期) + **37%**

^{*} 半導体・二次電池業界売上における前年比は為替影響除く

制御機器事業：データ利活用ニーズの取り込み

製造現場のデータ利活用を促進する新型コントローラをリリース

製造現場データ 利活用への課題

データの取得・活用
方法がわからない

既存設備を
止めたくない

機器メーカーごとに
データ形式が異なる



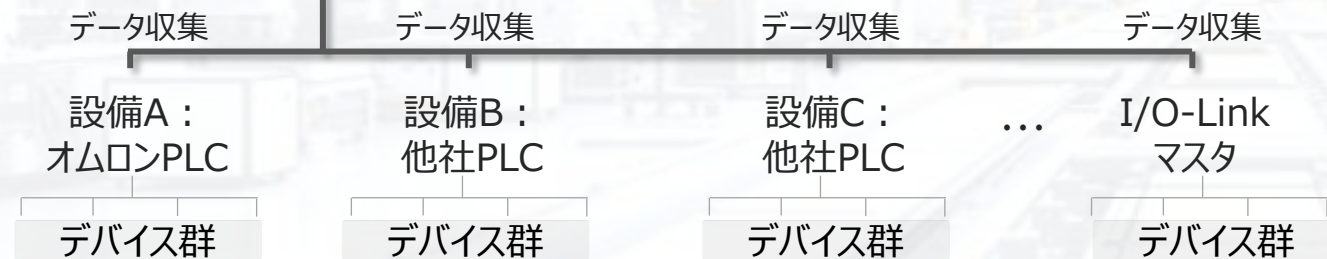
“データフローコントローラ DX1” (25年9月発売)

「既存」生産設備からのデータ収集と可視化を「簡単」に実現



【商品の特長】

- 他社PLC設置の既存設備にも**“後付け”可能**
- **“プログラムレス”**で技術者のスキルに依存せず導入可能
- **分析ツール**をコンポーネント化して提供



累計売上 (計画比) **+30%** 受注 (計画比) **+106%**

株主還元

期末配当は、前回予想通り52円を計画。年間配当予想は期初計画通りの104円を維持

期末配当 (予想)

52円

年間配当 (予想)

104円

3. CFOメッセージ

収益構造の強化に向けて

来期以降のさらなる営業利益率の向上に向け、各収益施策の実行スピードを高めていく

● 稼ぐ力(GP率)の改善

- 新商品リリースと売価マネジメントの強化
- 中国ローカル部材の採用拡大、
現地での設計・開発・生産の実施

● 事業ポートフォリオの最適化

- 決済端末事業の収束
- 欧州車載用リレー事業の売却
- ヘルスケア事業の製造拠点の再編

● 販売管理費の効率化

- 国内：JV設立*による間接業務の効率化
- 海外：エリア統括会社の解消

韓国、アジア(25年3月)、米州(25年9月)、欧州(26年3月)

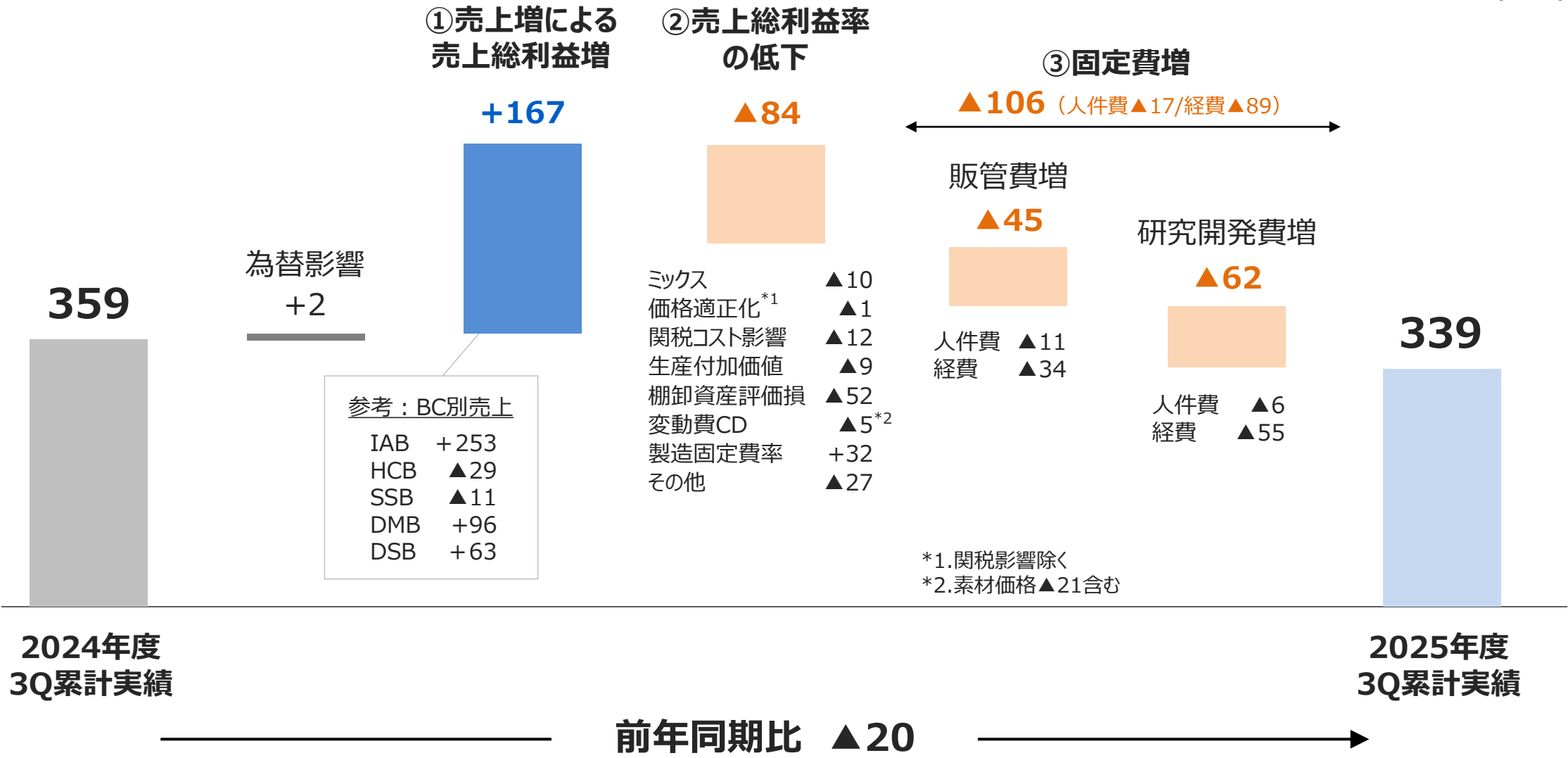
*オムロン トランスコスモス プロセスイノベーション株式会社

OMRON

参考資料

3Q累計実績：営業利益増減（前年同期比）

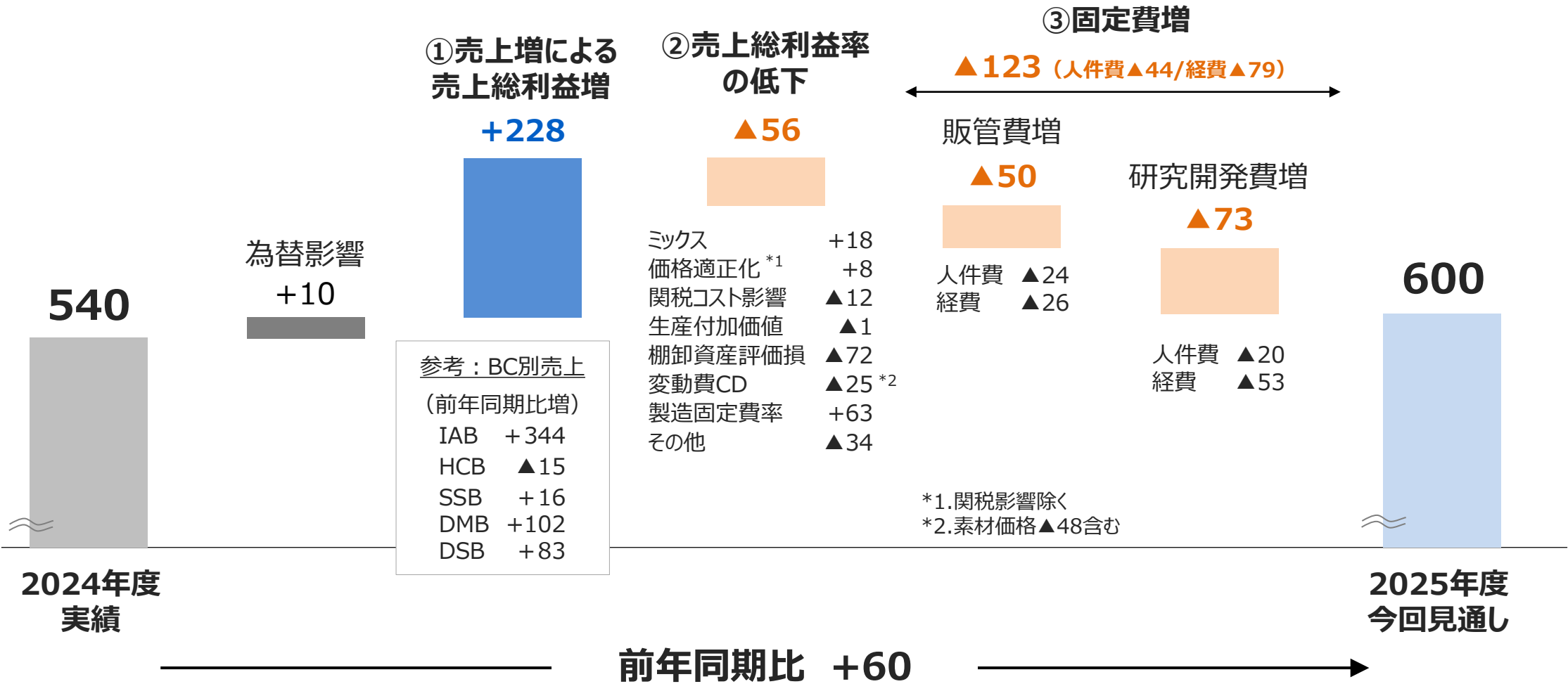
(億円)



*1.関税影響除く
*2.素材価格▲21含む

通期見通し：営業利益増減（前年同期比）

(億円)



連結貸借対照表

	(億円)		
	2025年3月末	2025年12月末	前年度末差異
流動資産	5,393	5,852	+459
（現金及び現金同等物）	(1,490)	(1,552)	(+62)
（たな卸資産）	(1,730)	(2,048)	(+319)
有形固定資産	1,351	1,409	+58
投資その他の資産	6,874	7,219	+345
資産の部合計	13,618	14,480	+862
流動負債	2,333	2,773	+440
固定負債	1,941	1,984	+43
負債の部合計	4,274	4,757	+483
株主資本	7,719	8,083	+364
非支配持分	1,625	1,641	+15
純資産の部合計	9,344	9,723	+379
負債及び純資産合計	13,618	14,480	+862
株主資本比率	56.7%	55.8%	△0.9pt

連結キャッシュフロー計算書

(億円)

	2024年度 3Q累計実績	2025年度 3Q累計実績	前年同期差異
営業活動によるキャッシュ・フロー（営業CF）	329	332	+3
投資活動によるキャッシュ・フロー（投資CF）	△432	△498	△66
フリー・キャッシュ・フロー（FCF）	△103	△166	△63
財務活動によるキャッシュ・フロー（財務CF）	△22	150	+172
期末の現金残高	1,369	1,552	+183
設備投資*	342	354	+12
減価償却費	250	250	+1

* 設備投資額について、2025年度1Q実績よりキャッシュ・フロー計算書に基づく資本的支出ベースに変更。
本変更に伴い、2024年度上期実績も同様の基準で遡及修正を実施

2025年度の為替感応度・為替前提

1円変動(人民元は0.1円)による影響額(通期)

	為替感応度		為替前提
	売上高	営業利益	2025年度 4Q為替前提
米ドル	約12億円	約1億円	150.0円
ユーロ	約7億円	約3億円	175.0円
人民元	約7億円	約1億円	21.5円

*新興国通貨等が、主要通貨に対して期初想定通りに連動しなかった場合、感応度に影響を与えます。

$$\text{ROIC} = \frac{\text{当社株主に帰属する
当期純利益}}{\text{投下資本}^*}$$

* 投下資本 = 借入金 + 株主資本

投下資本は、前年度末実績および当年度の各四半期毎の実績
または見通しを平均して算出

＜注意事項＞

1. 当社の連結決算は米国会計基準を採用しています。
2. 業績予想などは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまなリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。

＜IRに関するお問い合わせ＞

オムロン株式会社

グローバル戦略本部 IR部

E-mail : omron-ir@omron.com

Webサイト : www.omron.com/jp/ja/